

伯國材輸出入

NOTÍCIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 5996
S. Paulo, Brazil
Proprietário e editor
Seisaku Kuroishi
Assinaturas
por Anno — 185000
„ Semestre — 85000
„ Mez — 18500
„ Semana — 5500

年記念事業として選抜の實業學校長が在る。氏は學者であり、政治家で、現在は同市歎氣に寄附する事と相成り、それは産業政策を日本とか東洋とか、特に氏は日本のとなり、勞動も提供すれば原料も供給し、尚は直接間接に商業範囲の擴張にも力を添へるものであるから、日本内地を加工地とし、日本内地を販路とする而して氏の此の立案は、極西の英國を模倣して、商工立國策から割出されたものである。日本は如く過剰人口の處分法から云ふ有名である。

而して、その結果は、極西の英

國を模倣して、商工立國策から割出

されたものである。

而して、その結果は、極西の英

● 聖州義塾設立の趣意は既に本紙伯國獨立百年祭紀念號に發表致しましたから、大方の人々は御了解なされて居る事と信じます。只目下愈々そが實現の爲に要する資金の募集に就て一言を述べ、之を直接在伯同胞の有志家諸彦に訴へる次第であります。私は今迄接した同胞の中で、一人として私の目下の事業に對して不賛成を唱への方のないのを見て、非常な喜びと感激と満ちて居ります。實際私の今爲しつゝある事業は、一步々確実な方向に向つて進みつつありますので事業そのものから受けれる喜悅と獎勵も、亦他人の想像し得ないものがあります。只残念な事には仕事をやつて然かもやりがいがあるのに、適當な場所と設備が無い爲に十分其効果を擧げる事が出来ないで苦しんで居ります、それでは是非とも必要な場所を得たいのが私の目下の願であります。愈々永久的事業として取掛る以上は、場所の選定も姑息な事ではなく、眞に活動の中心となるべき一定の場所を定めて、漸次目前に迫られて居る事業から、次第に健蹄な歩調を進めて行き度いと希ふ次第であります。

勿論之には相當の資金を要するのであります。私は最初成るべくは之を在伯同胞からは募らずして、故國の富豪有識者に一肌脱いで貢ひ度い希望から、幸に先般來伯せられた日本實業團の人々に訴へるのが最善の道と思ひ、早速所要の出版物を作つて態々リオ派出張致し、山科團長を初め其他の人々にも直接面會して、大に在伯同胞の永久的發展とそれに對する精神的事業の必要を力説し既にこの目的に向つて歩を進めつゝある私等の事業に對して、出來得る限りの援助を與へらん事を訴へたのであります。元より一行の人々は悉くする事業の必要を認め、其趣意に對して一人の不賛成者も無かつたのであります。伊ザ金を出すと云ふ事になれば容易な事では動くべくもな

く、漸く一コントの寄附を残されたに過ぎませんでした。私は實業團員に對して寄附を無理強いる何等の意志もありませんが、只我等は今や世界の一等國民として世界的に發展しやうとして居る以上、須らく日本人自身の費用を以て自國民は元より他人種の教化迄もやらねばならぬと努力して居る私等の事業に對しても少しの了解を得たかつたのであります。私は必ずしもアンダーグロサクソン民族が今日の世界的發展をなした同一轍を踏まんとするものではあります。民族の事のみに閉ざされる程利己的でなく、もつと世界的に何ものかを貢献して見度いと切望して止みません。私は實業團の人々から期待の十分になりました。其外聖州義塾設立資金募集に就ても自下伯人側の有力者が金額を助けて呉れる外に毎月五十針感謝に言葉ない位であります。先づエルグエツテヤの教會は毎日曜十名内外の教師を送つて、私の日暦學校を助けて呉れる事に特殊な寄附を以て援助して呉れる事になりました。此上ない幸思ひます。私は出來得る限り在伯同胞全體の事を共にして南米に於ける我同胞の永久的發展の爲に努力し度い考であります。既に二三コントスの寄附金が集りましたが尚ほ廿コントス餘りを在伯同胞の義俠心に訴へ度い次第であります。

●日本ゴム界

北米の護謨加工業の中心地オハイオ州のアクリンから最近紐育へのやうな通信があつた。世界護謨市場に於て、日本は一の謎である。一九一三年に同國は一千二百六十五噸の護謨を輸入し、一九二〇年には五千八百噸を輸入した。而して一九二一年に於ける、日本の護謨輸入量は實に二萬二千五百噸に躍進した。そして本年は尙其以上に上の見込だと云ふ。之に就て特に研究に没頭した、當市大工業家の代表者は、あれだけの護謨を日本は輸入して、何にするのかさつぱり詰解に苦しんでゐる。別に精製護謨として輸出してゐるわけでない。日本に於ける自動車の數は増加した、然し輸入原料護謨の増加の割合はとても均合はない。獨逸や佛蘭西や英國は、外國に於ける恐るべき競争者ではなくなつた。獨逸の原料護謨輸入の大増加は、戰後に於ける該品の不足と、在庫品充實の爲が大部分を占してゐた。實を云ふと獨逸は今迄決して護謨の大工業國ではなかつた、一九一三年に於ける生産を制限すると共に能率も減少し、百五十萬弗と計上されてゐる。最初の半分は輸出されてゐた、現今に於ける生産量は分明しないが、工場は政府の態度の一一定しないので、輸出に非常な困難を感じてゐる。最初獨逸帝國の方針は、護謨製精品迄を含んだ輸出の擴張にあつたのが、目下は國庫に金を充實することに全力を傾むけてゐる、能率は以前に比べてずつと低下してゐる。財政の悲況は運輸の困難となつた、獨逸は一九一三年に一万六千五百噸の粗護謨を輸入量は世界生産高の一・四・五パーセントに當り、一九二〇年には七パーセントに當つてゐる。米國は一九一三年に五萬八千九十二噸、即ち世界産額の四六・六パーセント、一九二一年に十九萬一千七百二十噸、生産

額に對する百分比は六〇・八パーセントを輸入した、佛蘭西の輸入量は一九一三年の六千七百五十一噸から一九二一年には一萬五千六十四噸に増加した。

●米國の支那侵入

巴里發行、フランス・スクベル誌九月號に、レス・フ・シ氏が「米國の支那侵入」に就いて興味ある記事を書いてゐるので、今茲にその一節を紹介する。米國は既に十年以來、支那を現代的に又基督教國にする爲に骨を折つてゐる新教の布教團、特に基督教青年會は、その德育の改革、發達を實現するに止まらず、政治的開拓まで手を出して、遂に米國の型に押しつけられた。大民主義を建設するに至つた米國布教團の目的は二重である。即ち第一は基督の大精神に則つて、基督教主義により教育し、武力を廢して、大民主義を建設する。此の第二の目的を成就してから、米國の輸出入貿易の、一大市場に支那をしやくすとするので、かうした目的の両面ともアングロサクソンの兩目を躍らせるとして語つてゐる。この目的を實現し、新人を指導教育し、支那をして學校を設けるより他に方法がない、と判断して學校を設置して得た効果は、今迄アングロサクソンの布教團に於て得られたもので、その第一の功績は基督教青年會の努力に歸するのである。

セラは婦人の道徳及び社會改造に手を貸した事である。アングロサクソンは米國人、その中でも基督教青年会が活動の基礎として、四千の學校を設した。その中十四は専門學校で、四校は大學である、揚子江沿岸の学校は大学である、揚子江沿岸の学校は大学である、揚子江沿岸の学校は大学である。一百三十一人の生徒が一八七六年から一九一五年の間に、新教により進むもの三十八%、歐洲教會に屬するもの約八%であった。各種學校やその中米國の學校に屬するもので、三%、英國及び加奈陀の學校に屬するもの三百十人の専門家を有し、病院二百四、施療所百九を以て、全國に涉つて活動している。中にも満足の如きのもので、デイカル・ボードは北京と上海に研究所以ある、中にも最も著名なのはロックウラー研究所である、又チャイナ・カル・ボードは北京と上海に設立した。

